群教セ	E03 － 03
	平17.228集

身近な社会的事象から主体的に調べて考える学習を促す指導の工夫

── 調査・見学・体験に基づく表現活動を取り入れて ──

特別研修員　　吉野　泰広　　（沼田市立薄根小学校）

《研究の概要》

本研究は、身近な社会的事象の調査・見学・体験に基づく表現活動に取り入れることにより、児童が主体的に調べ、考える力を育てようとしたものである。具体的には、つかむ過程での調査・見学・体験により課題意識をもたせ、深める過程でさらに調査・見学・体験をし、自分で選択した表現方法で調べ学習を行い、まとめる過程で発表し、意見交流をすることにより、様々な視点から考えられるように指導を工夫する活動を行った。

キーワード　【社会一小　課題解決学習　調査研究　表現活動　発表　話合い活動】

Ⅰ　主題設定の理由

社会科は、社会や社会事象についての認識と公民的資質の育成を目的としている。社会のさまざまな問題をとり上げて考えたり、社会事象についてさまざまな概念を理解させたり、人間・社会にかかわる態度や能力の育成を図ったりする。だが、高度情報化社会と変革の時代を迎え、それに伴い児童たちが立ち向かう対象としての社会や社会的事象は日々変化し、ますます拡がりと複雑さを見せている。したがって、児童の単なる知識の習得や表面的な理解では社会をとらえられなくなっていて、変貌する社会は、児童自身が問題意識をもって意欲的に取り組むことを難しくしてきている。これは学年が進めば一層顕著であり、学習対象の広がりとともに、扱う社会的事象の要素や意味も複雑になっている。

これからの社会科授業では、社会の変化に自ら対応する能力や態度を育てるために、学び方や調べ方を身に付けることを一層重視する必要があり、この観点からの学習指導の改善が求められている。その実現には、児童が自ら問題を解決するために、自ら情報を収集し、それらを活用・整理する問題解決的な学習活動を構成することが大切になる。そして、児童の問題意識を引き出す教材を吟味するとともに、資料などの収集・活用・整理の場を計画に位置付けることも必要である。そのためには、地図帳や統計資料などの積極的な活用に加え、学校図書館や公共図書館、コンピュータの活用などを計画的に行い、児童が学び方や調べ方を身に付けるように工夫していくことが肝要である。

しかし、本校における５年児童の社会科の実態をみても、「社会科見学は楽しい」という児童が多い反面、「調べ方がわからない」「何を調べたらいいかわからない」という児童が少なくない。５年生という段階に対して、学び方や調べ方が十分身に付いているとはいえず、社会科学習に対する「興味・関心・意欲」も決して高いとはいえない。これは小学校４年生で、社会科の興味・関心がもっとも低くなるという全国調査の結果（５年生になっての調査：ＮＲＴ）とも一致している。理由としては、学び方・調べ方が身に付いていない段階で、調査・見学・体験による調べ学習が多くなるためとも言われている。

そこで、児童が学び方や調べ方を身に付けることは、児童が主体的な学習を展開できるようになることが大切であると考えた。身近な社会的事象における調査・見学・体験活動を追究の起点として、児童の関心・意欲を高めていく。そして学び方や調べ方を身に付けるために、具体的な活動に基づく表現活動を取り入れることに着目してみた。特に、その過程では、調査したことや見学したことを自由な発想でまとめて発表・交流することを重視する。小さな交流や発表を通して、自分が調べたことが明確になるだけでなく、さらに調べなければならない点も明らかになるであろう。小グループ内での発表を繰り返しながら級友の追

究方法にふれることもできる。また、発表を通し互いに情報の共有することもできる。この共有は情報の共有だけでなく、学び方・調べ方の共有ともなるはずである。これからの社会科教育に要求されていることは、一人の人間として社会に対してどうかかわり、社会生活の中でどう生きていくかである。それは、自己の生き方を主体的に考え行動できる児童の育成にあると考える。この視点から、「調査・見学・体験に基づく表現活動」を取り入れることは、主体的に調べて考える学習に効果的であると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

身近な社会的事象から課題を追究する学習において、調査・見学・体験に基づく表現活動を自分で選択していく学習を行うことが、児童が主体的に調べ、考えることに有効であることを、実践を通して明らかにする。

Ⅲ　研究の見通し

1　つかむ過程で、教科書や資料集などから学習の目当てをもち、調査・見学・体験活動をおこなえば､課題に対する追究する意欲が喚起され、課題を解決する見通しをもつことにつながるであろう。

2　深める過程で、自分の課題にそって、身近な社会的事象をさらに調査・見学・体験し、それに基づいて自分で選択した表現方法でまとめれば、調べて、考えることができるであろう。

3　まとめる過程で、具体的な活動に基づく自分の表現方法によって、小グループ内で発表・交流などの活動を取り入れれば、自分の考えを社会的事象と関連付けて比較、吟味、整理し、さらに考えを深めることができるであろう。

Ⅳ　研究の内容と方法

1　研究内容

(1)　主体的な学習を促す工夫について

今までの５年生の指導では、学習内容が高度になり過ぎたり、知識注入型の指導に陥ったりする傾向が一部に見られた。このような指導を改善し、児童の主体的な学習が展開できるようにするためには、調査・見学・体験活動やそれに基づく表現活動を重視することが大切である。例えば、各種の産業と自分たちの暮らしとの関係を調査したり事例地の資料を収集したりして調べる活動、調べたことを様々な形態に表現したり考えを深めたりする活動などを積極的に取り入れることが期待される。

(2)　「調べて考える力」の育成

この力は、全学年で育成すべき力である。現行指導要領では、中学年を地域の学習と明確に位置づけ調べて考える力の重点としているが、第５学年においても踏襲すべき点が多い。まずは地域の社会的事象を具体的に調べる力や調べたことを表現する力、さらに調べたり表現したりしたことに基づいて地域社会の特色や相互の関連などを考える力を育てるようにすることが基本である。そのためには、まず、身近な社会的事象が、単元や小単元の基礎・基本を身に付け、調べて考える力を育てるための最適な事例や対象であるかどうかを判断することが必要である。具体的は、その教材とのかかわりをとおして児童は「何を」調べて「何を」考えるのかという視点から十分な吟味・検討を加えることが大切である。例えば、地域の工業を取り上げる場合、その工業を調べる活動をとおして、児童の中に「それが地域の人々にどのように役だっているのか」「その工業は地域の経済活動にどのような影響を与えているのか」などといった問題意識が生まれるようにすることが大切である。また、その問題の追究過程で児童が「何を」「いかにして」調べるのかという追究の対象や方法を明確にするとともに、そこから児童に「何を」考えさせるのかという、児童に考えさせたい中身を明らかにしておくことが必要である。

(3)　学び方や調べ方を身に付ける調査・見学・体験活動に基づく表現活動について

５年生の学習内容は、社会の変化と密接にかかわっている。これからの社会科の授業では、社会の変化に自ら対応する能力や態度を育てるために、学び方や調べ方を身に付けることを一層重視する必要があり、この観点からの学習指導の改善が必要である。

その実現には、児童が自ら問題を解決するため

に、自ら情報を収集し、それらを活用・整理する調査・見学・体験活動に基づく問題解決的な学習活動を構成することが大切である。

資料などの収集・活用・整理の場を計画に位置付ける。そのためには、地図帳や統計資料などの積極的な活用に加え、学校図書館や公共図書館、コンピュータの活用などを計画的に行い、児童が学び方や調べ方を身に付けるように工夫する。本研究では、特に、調査・見学・体験活動に基づく表現活動を児童が主体的に選択できることを重視している。これにより、追究の意欲は一層高まると同時に、個に応じた学習活動の展開となると考える。

2　研究の方法

(1)　授業の実践計画と検証計画

対　象	沼田市立薄根小学校５年松組（38名）	単元名	わたしたちの生活と工業生産
実践期間	平成17年10月上旬～下旬（全14時間）		
検証項目	検証の視点		検証の方法
見通し１	つかむ過程において､教科書や資料集から学習のめあてをもち、調査・見学、体験活動を行えば、課題に対する追究する意欲が喚起され、課題を解決する見通しをもつことにつながるであろう。		・学習活動の観察 ・ワークシートの内容分析
見通し２	深める過程で、自分の課題に沿って、身近な社会的事象をさらに調査・見学・体験し、それに基づいて自分で選択した表現方法で取り入れていくことは、課題に対して深く考えることに有効であったか。		・見学や観察のワークシートの内容分析 ・作品の内容分析
見通し３	まとめる過程で、具体的な活動に基づく自分の表現方法によって、小グループ内で発表や意見交流の活動を取り入れれば、自分の考えを社会的事象と関連付けて比較、吟味、整理し、さらに考えることに有効であったか。		・発表、話し合いのワークシートからの内容分析 ・作品の内容分析

(2)　抽出児童

A 男	興味のある学習に対しては、積極的に取り組み、話し合いなどでも、自分から発言するが、内容が平凡である。見学したりすることは好きだが、まとめるのは苦手である。
B 子	授業に対して受け身な態度で消極的であり、自分から発言することはあまりない。パソコン操作に優れているが、自動車についての興味や関心は薄いようである。

Ⅴ　研究の展開

1　単元･題材等の考察と目標、評価規準

単元の考察	本単元は、学習指導要領の第５学年、内容（２）に基づき、具体化したものである。本単元では、我が国の工業生産について、自動車産業に携わる地域の人から話を聞いたり、見学をしたり、資料を収集し活用したりしながら調べることで、工業生産と国民生活の関連性について学習する。この学習を通して、工業生産に従事している人々の工夫や努力が我が国の国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解できると考え、本単元を設定した。
目標	工業生産に従事している人々が、原材料の確保や製造の過程、製品の販売や消費地への輸送、新しい技術の開発、資源の有効な利用と確保、環境保全への取組などにおいて様々な工夫や努力をしていることをとらえることができる。 工業生産の現状と特色について、見学したり、資料を活用したりしてとらえ、わかりやすく表現し、発表することができる。

評価規準	十分満足できる状況	おおむね満足できる状況
	社会的事象への関心・意欲・態度	
	工業生産の様子について関心をもち、人々の努力と工夫について様々な視点から調べようとする。	工業生産の様子について関心をもち、人々の努力や工夫について調べようとする。
	社会的思考・判断	
	工業生産が効率よく安定して生産されているわけを働く人々の努力や関連工場とのつながり、機械化や輸送の工夫などと関連付けて考えることができる。	工業生産に従事している人々の工夫や努力について、その目的や意味について考えることができる。
	資料活用の技能・表現	
	工場見学やそこで働く人の話、各種の統計資料などを目的に応じてとらえ、分かったことや自分で考えたことを分かりやすく表現することができる。	工場見学やそこで働く人の話と、各種の統計資料を目的に応じて読み取り、工業生産の特色を図や表に表現することができる。
	社会的事象についての知識・理解	
	工業製品が生産・開発される様子やその過程での人々の努力や工夫について事実を関連付けて理解し、説明することができる。	工業製品が生産・開発される様子やその過程での人々の努力や工夫など、工業生産の特色について理解する。

2　指導計画（全14時間予定）

過程	時間	主な学習活動と内容	支援及び指導上の留意点	形態	評価項目（評価方法）
つかむ	1	○自動車のパンフレットや新聞の広告などを持ち寄ったりして気付いたことを話し合う。	○人によって好きな車は違いため、種類が膨大な数になることをおさえる。	個人から一斉	○使用する目的に応じて、選ぶ車の形や色や装備が様々あることが分かる。 【関】（観察、ワークシート）
	2 3	【見通し１】 ○近くの自動車販売店を訪ね、自動車の種類と一台当たりの部品の多さに気付く。	○人の好みに合わせた車の注文から納品までの流れをおさえさせる。 ○エンジンルームを開けて部品の多さとその役割についてとらえさせる。	一斉から個人	○取り扱っている車の種類や注文の仕方と納品の期間や方法、一台の車に必要な部品の数などに興味をもち、進んで調べようとする意欲がもてる。 【関】（観察、ワークシート）
ふかめ	4 5 6 7	○自動車工場について、資料を活用して、生産工程、関連工場との結び付き、工場で働く人たちの工夫や努力を調べる。	○多くの車を短期間につくるには、どのような工夫をしているのかということに目を向け、問題を意識させる。	一斉から個人	○自動車生産が、効率よく安定して行われるわけについて、関係する人々の協力や関連工場の協力、生産の工夫などと関連付けて調べることで、自分の学習課題をもつことができる。 【知】（ワークシート）
		【見通し２】			

る	8 9 10 11 12	○自分の学習課題に沿って、自動車工場を見学し、自動車生産の特色と、働く人の工夫と努力などの事象について調査する。 ○それぞれ調査・見学、体験したことをもとにして自分の課題に沿って、自分で選択した表現方法でまとめる。	○自分の見学の視点を工程・部品・販売経路・技術開発・環境に配慮した取組から選択させ、調査させる。 ○自分で課題解決の見通し（予想→観察・調査→検証）のもてる表現方法を選択させ取り組ませる。	一斉 個別 個別	○自分の学習課題に沿って調べ、自動車生産が、効率よく安定して行われるわけや、関係する人々の協力や関連工場の協力、生産の工夫などが分かる。 【知】（観察、ワークシート） ○自分の学習課題について、自分の選択したまとめ方で進んで取り組んでいる。 【表】（作品）
まとめる	13 14	【見通し３】 ○自分で調べたことを、自分の表現方法でまとめたものを、小グループ内で発表する。	○同じ課題を設定した友達同士で発表させ、調べてわかった事実を取り入れることにより、追求をより深めさせる。	小集団 一斉	○自分が調べた自動車生産の様子について友達と交流し、自分の考えを深めている。【思】 （発表、作品）

Ⅵ　研究の結果と考察

1　教科書や資料集などから学習のめあてをもち、調査・見学・体験などの具体的な活動を行ったことは、課題を解決する見通しをもつのに有効であったか

自動車のパンフレットや広告を持ち寄って気付いたことを書き出した。その結果は、38人中「車の色やデザイン」13名、「車の装備」10名、「環境性能」９名、「安全性」６名となった。自動車の外観や装備に興味をもつ児童が半数近くを占めたことは、用いた資料が自動車の購入者の興味・関心を引きつけるために工夫がなされているためである。このような大半の見方・考え方に「環境性能」や「安全性」というとらえ方を加えて考えさせることによって考え方に広がりをもたせて話し合うことができた。話し合いの後、自動車販売店の見学をしたことは、自分たちの気付いたことを確かめるのに効果があった。これにより、分かったことと分からないことがはっきりして、教科書で学習する視点（生産工程・部品・輸送・技術開発・環境安全）を明確にすることができた。特に課題がつかみづらい児童にとっては、友達の分かったことや疑問を知ることで、学習する目的と必要性を認識することができた。

Ａ男は、見学前、自動車が消費者の要望に応じられる注文方法について人々がどのような努力や工夫をしているのかについて調べてまとめようとした。そして、自動車販売店を見学することで、自動車販売店と製造元がパソコンの端末で結ばれていることが明らかになった。Ａ男は、両者のつながりが注文する車の情報をコンピュータの画面で選んで製造元に送信するという機械的なやり取りを行っていることををつかんだ。それと同時に、自動車のエンジンルームを見せてもらった際、部品の多さやその部品が限られた空間の中に無駄なく積み込まれている様子をながめて、自動車産業に従事する人々の努力や工夫という視点からもとらえていこうとする広がりをもった考え方をもつことにつながった。工業製品をつくるには、たくさんの人たちがどのように携わっているという広い視点に立って調べ、まとめることで、課題を解決していこうとする見通しがもてたと考えられる。

Ｂ子は、自動車のパンフレットをながめる中で、環境のことを考えた車づくりとして低燃費や排気ガス基準値などに疑問を出していた。しかし、自動車販売店の見学では、有害物質やその基準値を表した数値など専門的な知識が必要となり、課題

を解決できる見通しがもてなくなってしまった。そこで、自動車工場が車を製造する上で、環境や安全に対してどんなことを心がけているのかということについて調べていくことに課題を変容させることで、もう一度、見通しをもつことができた。

以上のことから、資料などから学習のめあてをもち、調査・見学、体験などの具体的な活動を行ったことが、自分の立てた課題を解決する見通しをもたせる上で有効であったと考える。

2　自分の課題にそって、身近な社会的事象をさらに調査・見学・体験し、それに基づいて自分で選択した表現方法でまとめることは、課題に対して深く考えていくことに有効であったか

調査・見学・体験活動は、「組立」10名、「部品」９名、「環境・安全」９名、「技術開発」６名、「完成した車の出荷」４名という五つの課題に沿ったグループに分かれて行った。

すべての児童にとって、自動車関連の工場を訪れるのは初めてのことであった。そのため、工場の規模の大きさや場の雰囲気にのまれてしまい、自分の課題以外のものに目を奪われてしまった。

そこで、こうした点を少しでも解消するために、工場説明をする人の言葉を繰り返して言ったり、説明の中で出てくる専門用語を児童に分かりやすい言葉で言い換えたりした。また、順路に沿って見学している各場所がどの課題を解決することに有効であるかを補足して説明することを試みた。

Ａ男は、部品について課題を設定して活動していた。見学前のＡ男は、高所作業車の部品の数やその大きさについて調べようとしていた。そして見学後には、部品を数はおよそ三万五千個で九千五百種類からなっていることを解明した。また一番大きい部品は、高い所で作業するために伸ばすアームであること、一番小さい部品は製造銘柄をとめるネジであることを調べてまとめていた。

そのほかにも工場内には、三日分の作業に必要な部品を常時確保していることやほこりに対して細心の注意を払っている部品があることをとらえることができた。

見学中にＡ男は、長さ百二十ｍにも及ぶ組み立てラインの規模にも関心が広がり、これと部品の配置の関係を分かりやすく表現できないかと考えた。そして、Ｂ４版の画用紙を横に二枚に張り合わせてまとめることで、この課題のまとめを表現しようとした。これにより工場内の部品が種類別に整理されていることや、組立担当の従業員が、効率よく作業しやすいように部品を配置していることなど、部品のことだけでなく、その作業に従事する人と部品のつながりにも考えを深めたまとめ方ができるようになった。

Ｂ子は、はじめ環境にやさしいエンジン開発に着目して、工場内を見学していたが、高所作業車の道路走行用のエンジンは、すでに取り付けられたものが工場に運ばれてきていたので調べることができなかった。そこで、Ｂ子は、高いところで作業するためのアームを伸ばすために使う作業用小型エンジンに着目した。このエンジンが環境についてどのように配慮して開発されているのか調べていくことにした。また、高所作業車に乗車体験をさせてもらった際には、高い所で作業する恐怖感と同時に作業の必要性も実感でき、作業中の安全対策についても調べていた。見学後Ｂ子は、パソコンをつかってＷｅｂページにまとめることを選択した。授業に対して受け身な態度で消極的であり、自分から発言することはあまりないＢ子であったが、パソコンの操作やインターネットで検索する経験が豊富であり自信もあったので、作業用の小型エンジンの騒音を解消するための手だてや作業中の安全対策への取り組みを見学・体験活動から調べたことに加えて、インターネットの情報から課題解決に関する事項レイアウトや画像の取り込みなど意欲的にまとめている様子が見取れた。

以上のことから、自分の課題にそって、身近な社会的事象をさらに調査・見学・体験し、それに基づいて自分で選択した表現方法でまとめることが、課題の応じて多面的に社会的事象をとらえて考える上で有効であったと考える。

3　自分の表現方法によって小グループ内で発表や意見交流の活動を取り入れれば、自分の考えを社会事象と関連付けて比較、吟味、整理し、さら考えを深めることに有効であったか

ふかめる過程で見通しをもって課題追究ができる表現方法で取り組ませたことで、まとめる過程では、多くの児童が、自分の課題を自分の言葉と自分なりの表現で発表し意見交流し合った。

Ａ男は「高所作業車の部品について」という課題をまとめたグループで話し合いを行った。友達

がまとめた中で、高所作業車本体の絵を描いて、その中に部品の名称や役割などを書き込む方法に感心して、この考えを自分でも取り入れて表現して発表した（資料１）。

資料１　Ａ男のまとめの一部

資料１から分かるように、最終的には、Ａ男は、言葉だけでまとめる表現方法から自分が大切であると考えたところを強調して表現したり、絵と言葉を組み合わせて部品の役割やその部品を使って高所作業車がどのように作動するのかについて考えをまとめていた。そして、小グループでの発表や意見交流の活動では、部品のことを調べていくうちに、その部品が高所作業車の製造ラインの中でどの部品がどんな所で使われているのかやそれに携わる従業員の人たちが、どのように部品を取り付けているのかにも追究する視点が広がったことを説明していた。

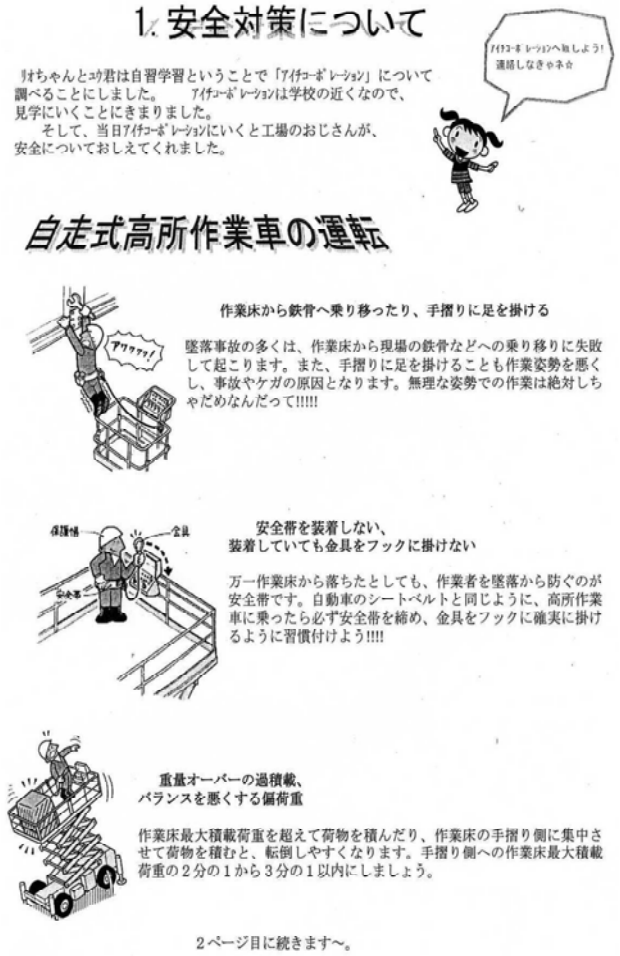
Ｂ子は、「環境と安全」について課題をまとめたグループで発表や意見交流をおこなった。Ｂ子は、「高所作業車の操作上の安全対策」についての発表をした。

Ｂ子は、見学した会社のホームページから自分がまとめるのに必要な画像を許可を得て張り付けるなどした。これによりグループ内でＢ子の発表を聞いていた児童からは、「とてもわかりやすい。」とか「Ｂ子さんのようにまとめてみたい。」などの意見か出された。

Ｂ子は、パソコンの操作に優れているだけあって、発表を聴く側にとっては、文字の強調、色使い、飾りつけなど非常に目をひく仕上がりになった。また、説明の文章とそれに対する挿し絵が分かりやすくまとめてあり、文章説明だけでは不明な点をうまく補うことができた。

発表しているときのＢ子は、普段の授業では、見ることができないほど自信に満ちあふれた口調で生き生きと発言していた。そこには、自分が発表する内容が自分自身でよく理解され、考えが整理されている様子を伺うことができた（資料２）。

資料２　Ｂ子のまとめの一部



また、Ｂ子は意見交流の場で部品を入れる箱を繰り返し使用してリサイクルに心がけていることや車の塗装に使う塗料などが人体に影響の少ないものを使用していることなどの友達の環境や安全に対する考えにふれて、自分の考えを広げることにつながった。

以上のように、児童相互の発表を聞き、意見交流の場を取り入れたことは、ほかの友達の調べ方や表現した内容について知る機会を得られた。これは、自分で調べたことを他の見方や考え方と比較することで、広い視野でとらえる上で有効であったと考える。

Ⅶ　研究のまとめと今後の課題

○　本研究の実践に際し、最も留意したことは、児童たちが身近な問題として工業をとらえるということであった。そのために、調査・見学・体験活動を本研究の中心に位置付けたり具体的な資料提示を工夫したりした。自動車販売店や高所作業車製造工場への見学を交えた調べ学習などの展開は、児童たちが自分の体を通して自動車産業に直接的にふれあえる体験となり、学習意欲を高めるのに効果的であり、主体的に自動車産業の問題を考えさせることができた。

○　調べたことを自分の表現方法によってまとめることで、その子のよさや意欲を引き出すことができた。また、交流活動を小グループで行ったことで意見交換に深まりをもたせることができ、学び方を広げたりすることにもつながった。

○　自分なりの表現活動で課題を解決させ、意見交流する場を設定したが、伝える側に分かりやすい表現方法を追究させることが難しく、単なる情報の交換に留まっていた児童もいた。一人一人の児童に社会的な見方や考え方の交流まで高めていくことが課題である。発表や意見交流をする前に、お互いのまとめたものを見合える場を設定し、お互いに質問し合うための発問の工夫などを行うことにより、一人一人の児童たちが社会的事象に対して、より主体的に確かな考えをもてるようにしていきたい。

○　調査・見学・体験を児童たちに主体的に取り組ませるためには、見学や調査が可能な施設、児童の発達段階にふさわしい調べ学習や表現活動を検討していく必要がある。各種の産業と自分たちの暮らしとの関係を調査したり事例に関係のある場所の資料を収集したりして調べる活動や調べたことを友達に分かりやすく伝えるための様々な表現方法を考えさせる活動を積極的に取り入れることが必要である。